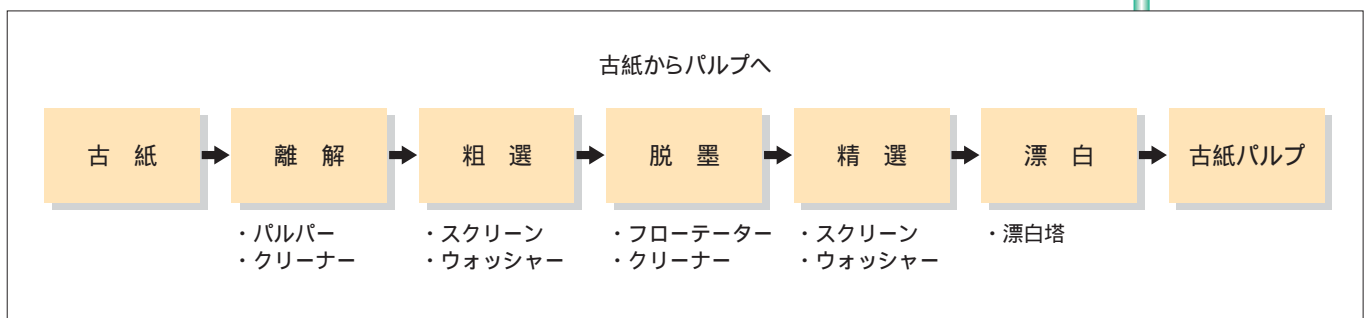


古紙の利用

資源循環型社会の形成を目指して、古紙利用率の向上に努めています。日本の製紙産業の古紙利用率は、すでに世界でも最高水準にあり、60%を超えています。日本製紙連合会では2010年度までに古紙利用率を62%へ高めることを目標としています。

三菱製紙では、1991年に八戸工場に日産100tの古紙プラントを設置して再生紙の生産を開始し、2001年には市場からの要望に対応するため、日産150tに設備の拡充を行いました。古紙プラントでは、模造古紙、色上古紙、新聞古紙を処理しています。古紙処理の概要を以下に示します。



古紙パルプ配合率検証制度

古紙パルプ配合率問題の再発防止を図るため、日本製紙連合会指針に基づいた古紙パルプ配合率検証方法を構築し、古紙パルプ配合製品を製造する八戸工場と高砂工場で2008年7月より運用を開始しました。具体的には、日本製紙連合会の検証制度チェックリストを用いて記録を確認していただく方法です。

検証方法の構築に合わせて再生紙製品ラベルへの古紙パルプ配合率表示を改め、「配合率 % 以上」と実数を表示することになりました。また、検証制度の厳正な運用を確保するため、ISO14001による監査および社内監査部門（内部監査部）による定期的な監査を実施しています。

古紙パルプ配合率の引き上げ

2009年1月より、主要な再生紙銘柄の古紙パルプ配合率を「15%以上」から「25%以上」に引き上げました。配合率を引き上げた製品の品質は従来の「15%以上」の製品と同等のレベルです。



集荷された古紙



古紙パルプ